

2-1.「栄養サマリー」の運用に関するアンケート結果

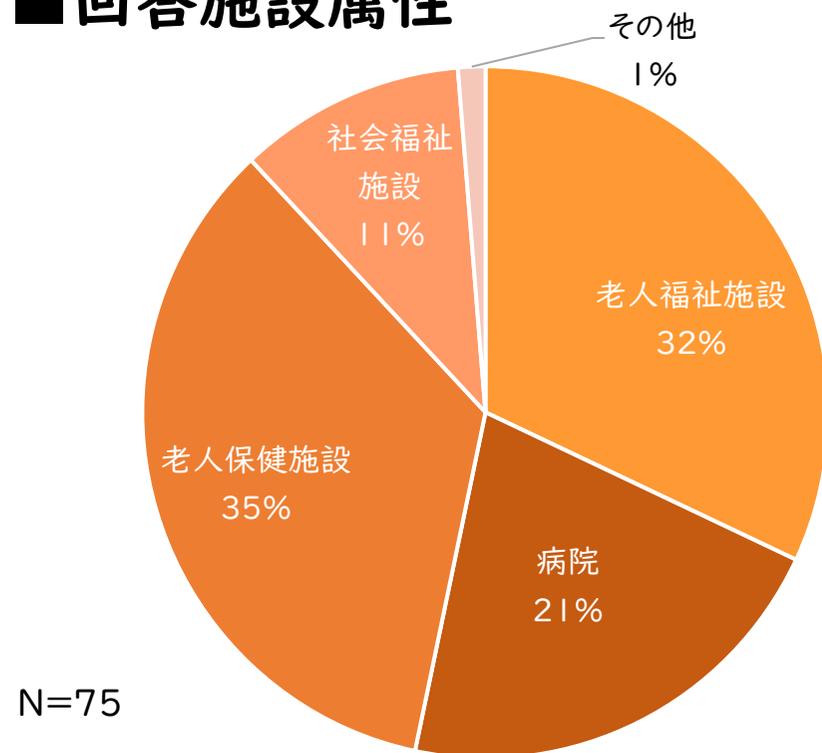
実施時期	2023年6月～7月
調査対象	<ul style="list-style-type: none">●中和保健所管内の特定給食施設等に勤める管理栄養士・栄養士、その他職種（看護師、介護士、ケアマネジャー等）（～R4までは管理栄養士・栄養士のみを対象に実施）●126施設（30病院、24介護老人保健施設、54老人福祉施設、13社会福祉施設、5その他）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">●栄養サマリーの運用状況●栄養サマリーの依頼状況および件数●栄養サマリーの提供状況および件数●多職種連携状況●気軽に相談できる専門職種●在宅の食支援に関する認識●在宅の食支援への対応
回収数	「栄養士用」59.5%（回収 75施設/配布 126施設） →n=75 「多職種用」38.1%（回収 48施設/配布 126施設） →n=50

回答率、回答施設属性、回答者の内訳

- 回答率 「栄養士用」59.5% (回収 75施設/配布 126施設)
- 「多職種用」38.1% (回収 48施設/配布 126施設)

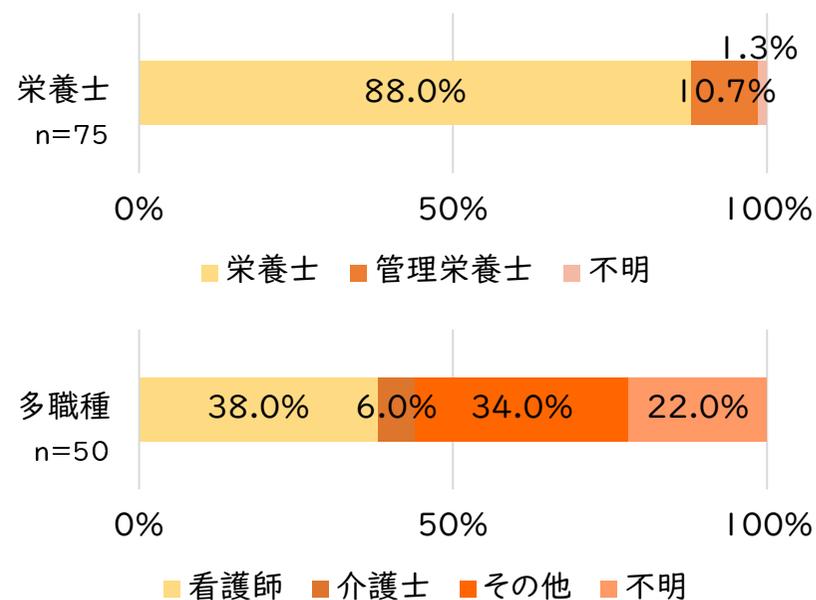
- 回答方法 (電子申請での回答 2施設:FAX等での回答 73施設)

■ 回答施設属性

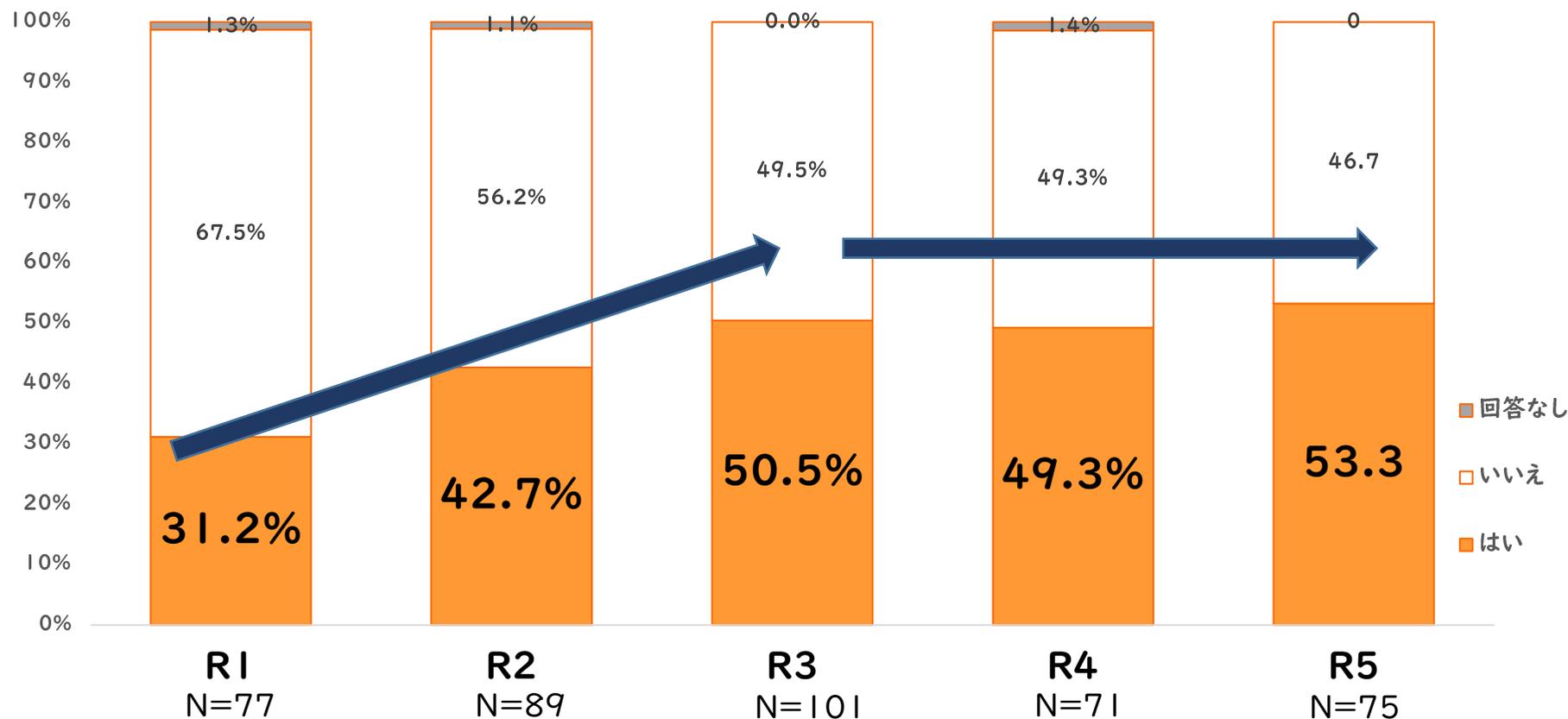


その他の施設: サービス付き高齢者向け介護住宅

■ 回答者の内訳

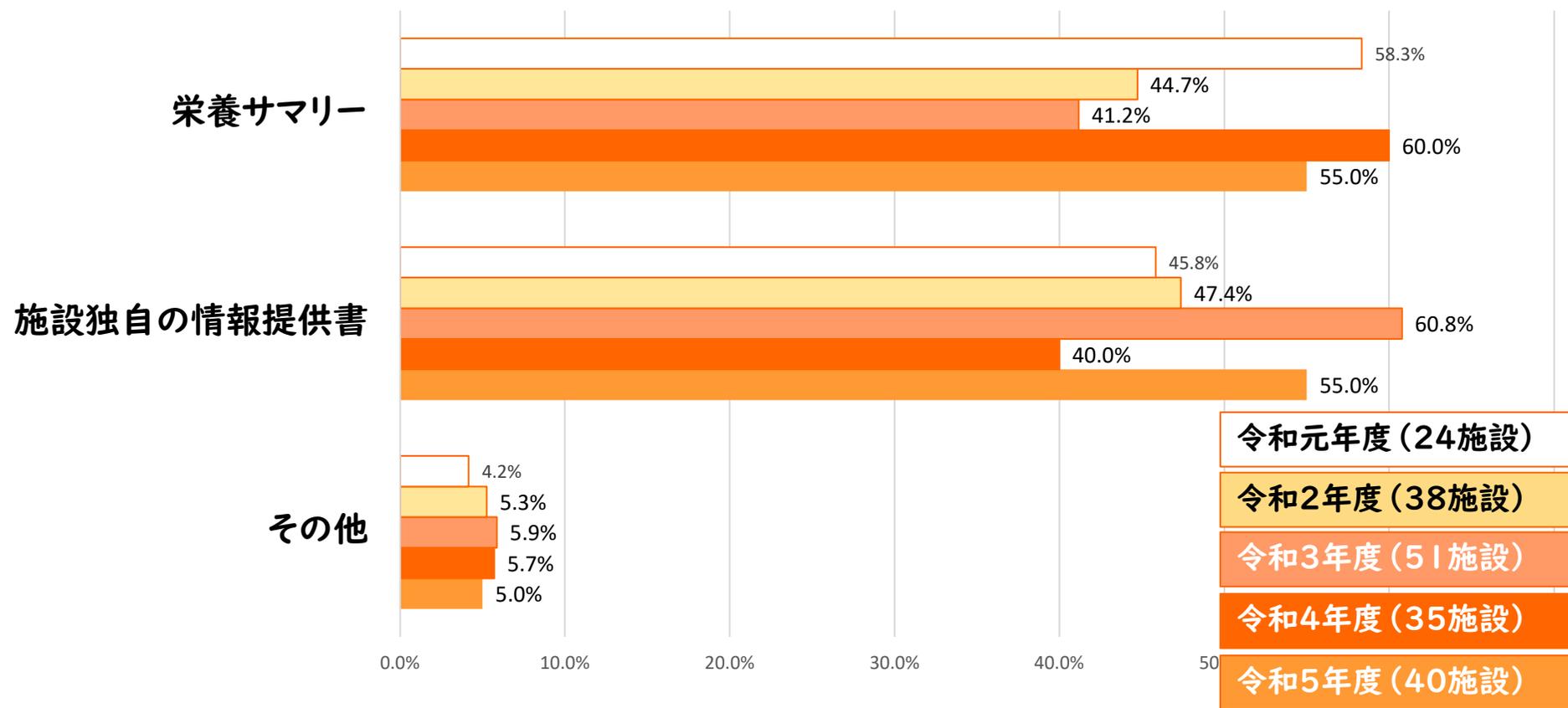


1. 「栄養の情報に特化した情報提供書（看護サマリー等を除く）」の運用をしていますか



- 令和元年度から令和3年度にかけて「栄養の情報に特化した情報提供書（看護サマリー等を除く）」の運用をしている施設が増加。令和3年度から令和5年度にかけては横ばい。
- 令和元年度31.2%(24施設)、令和2年度42.7%(36施設)で、令和5年度調査では53.3%に増加している。

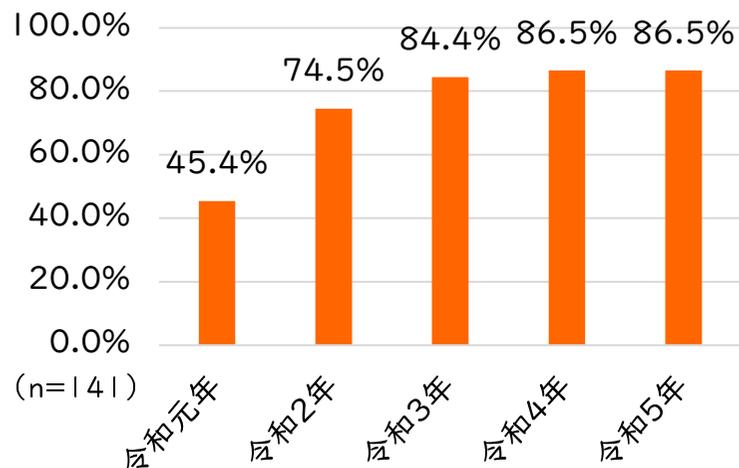
運用している情報提供書の種類 (重複回答あり)



●「栄養情報に特化した情報提供書」を運用している施設のうち、栄養サマリーを活用している施設は55%であり、過半数である。その他施設独自の提供書を運用している施設も同程度いた。

栄養サマリーの認知率、運用率の推移

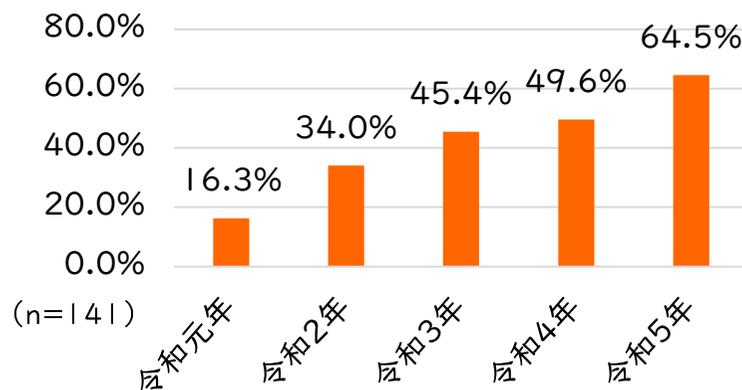
栄養サマリーの認知率



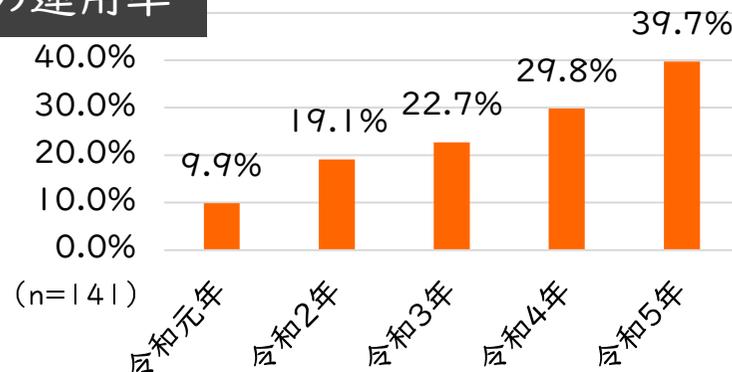
※栄養サマリーの認知率とは、毎年実施する『「栄養サマリー」の運用に関するアンケート』において、アンケートの回答があった施設の累積

●栄養サマリーの認知率は年々向上しており、中和保健所管内の施設については、必要な施設に認知してもらえている。

栄養に関する情報提供書の運用率（看護サマリーを除く）



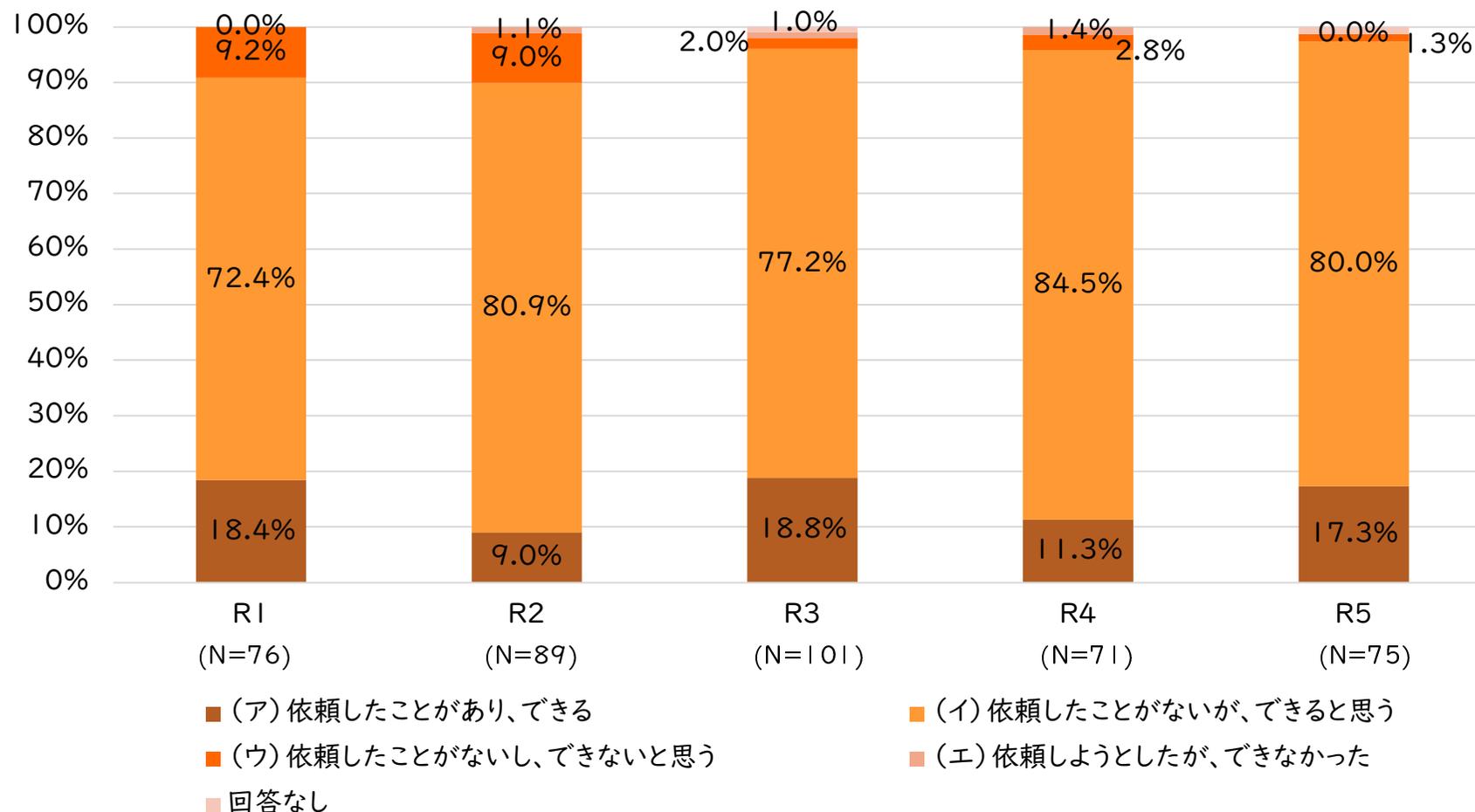
栄養サマリーの運用率



※栄養サマリーの運用率とは、毎年実施する『「栄養サマリー」の運用に関するアンケート』において、栄養サマリーの運用（情報提供書）がありと回答があった施設の累積

●栄養サマリーの運用率も年々向上しており、令和5年度においても14の施設が新たに運用していると回答した。

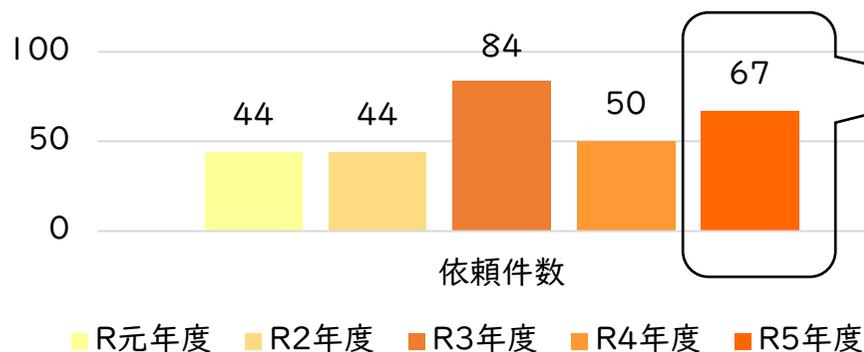
2. 貴施設から「栄養サマリー」を依頼できますか①



● 令和元年、2年には「依頼したことがないし、できないと思う」と回答した施設が10%弱いたが、令和3年以降、減少した。令和5年の調査ではほぼすべての施設が「できると思う」と回答した。

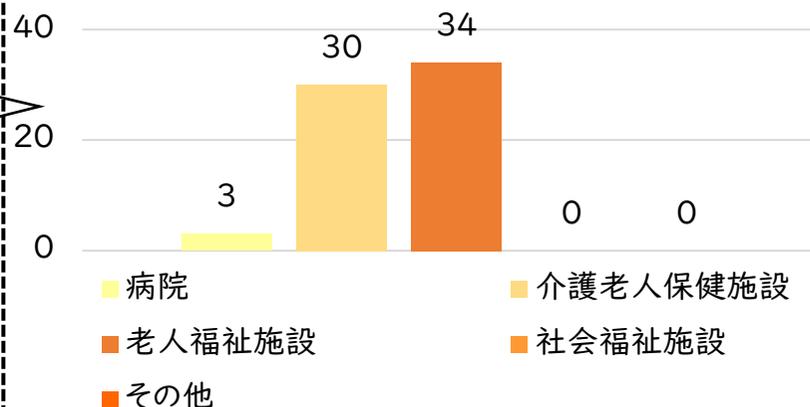
2. 貴施設から「栄養サマリー」を依頼できますか②

依頼件数の総数

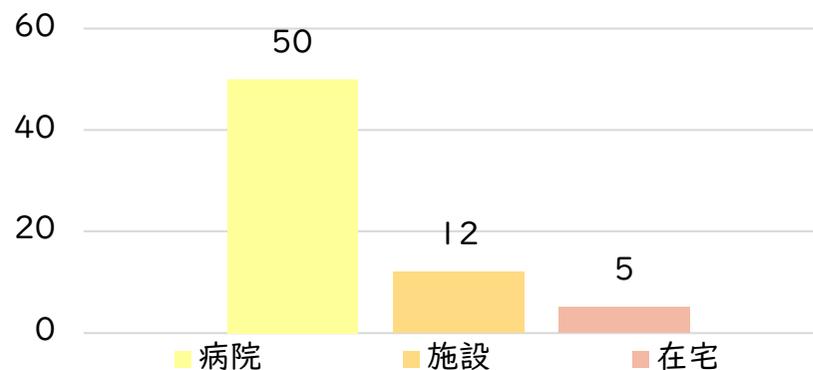


- 依頼件数はR3年度で増加した後、年度によって多少の変動はあるが、同程度（R5は67件）。
- 依頼元施設種別では「介護老人保健施設」、「老人福祉施設」が多い。
- 依頼先施設種別では「病院」が最も多い。

◆ R5年度のうち、依頼元施設種別



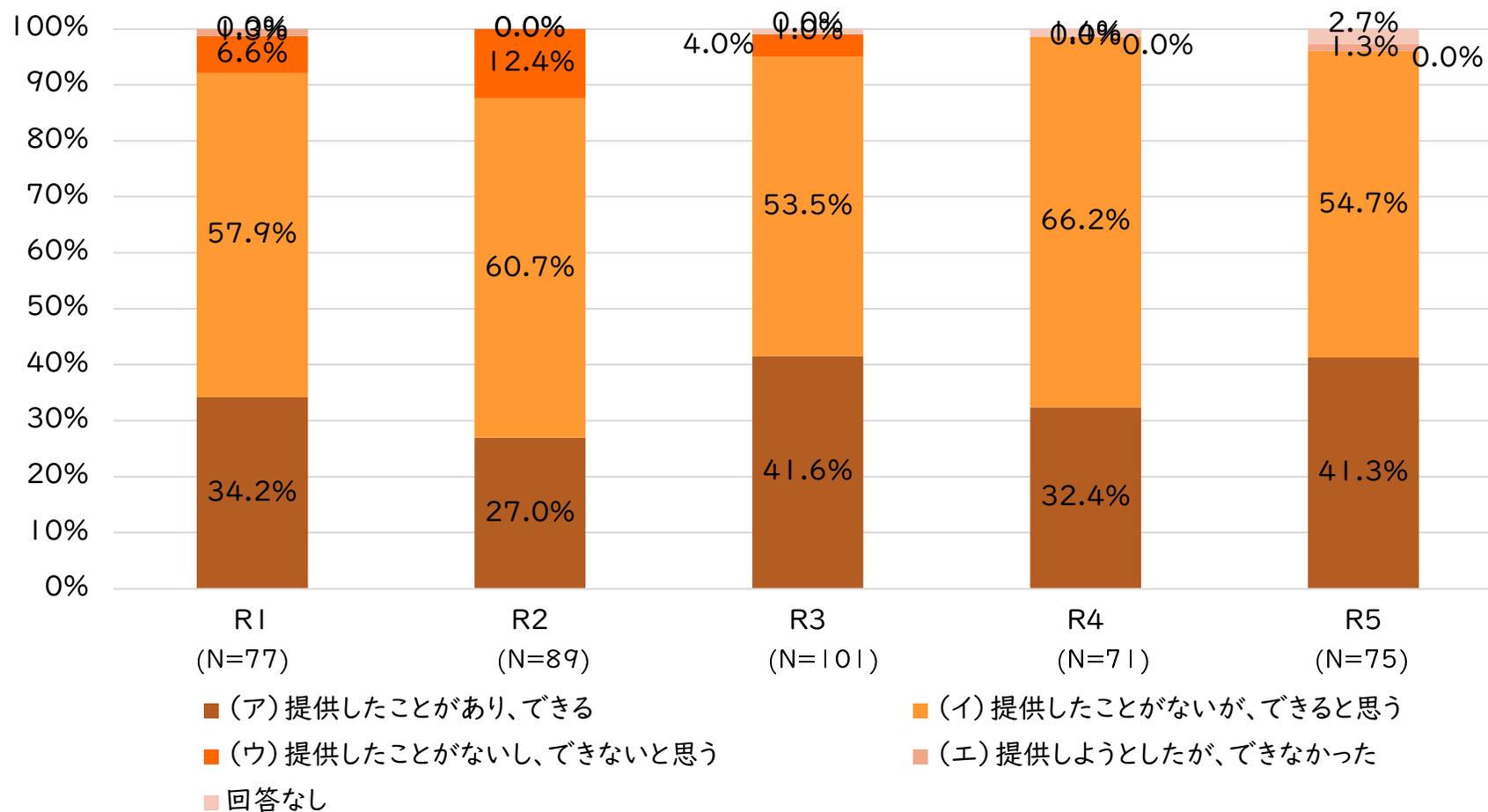
◆ R5年度のうち、依頼先種別



「(ウ) 依頼したことがないし、できないと思う」と回答した理由

- 独自の情報提供書がある所は難しいと感じます。(老人福祉施設)

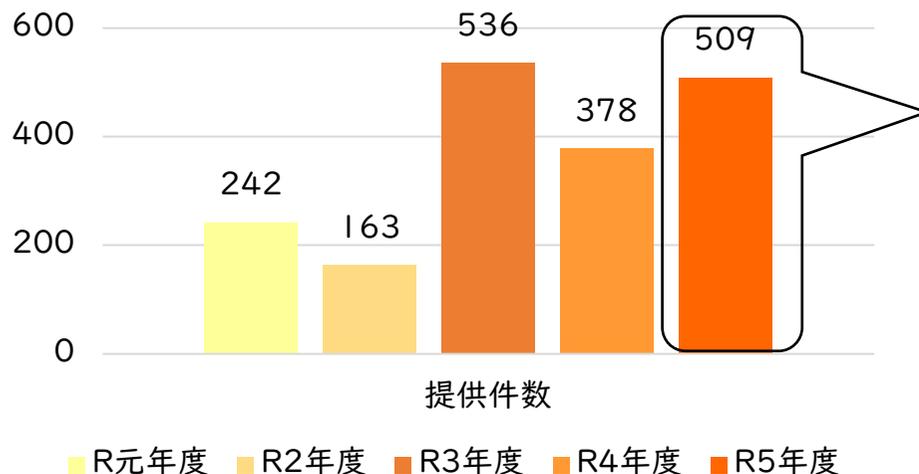
3. 貴施設から「栄養サマリー」を提供できますか①



●直近3年ではほぼ全ての回答者で提供することが「できると思う」と回答しており、必要だと思われるケースでは提供可能な環境になったことが分かる。

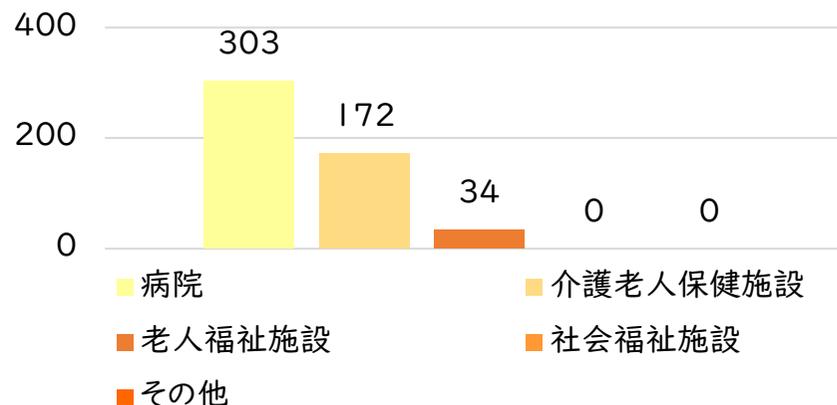
3. 貴施設から「栄養サマリー」を提供できますか②

提供件数の総数

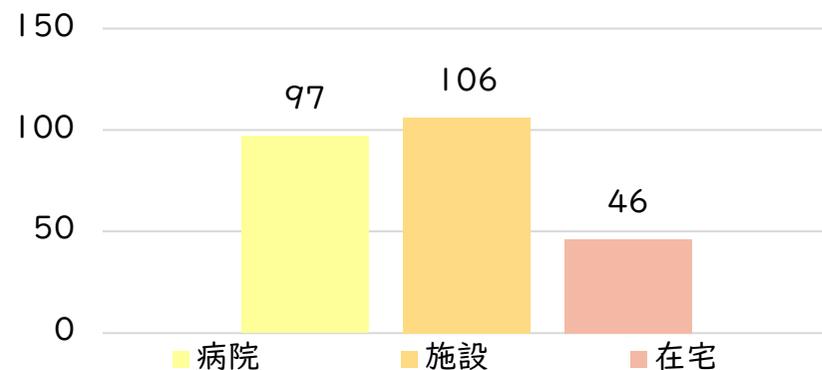


- 提供件数はR3年度で増加した後、年度によって多少の変動はあるが、同程度（R5は509件）。
- 提供元施設種別では「病院」、「介護老人保健施設」が多い。
- 提供先施設種別では「施設」、「病院」が多い。

◆R5年度のうち、提供元施設種別



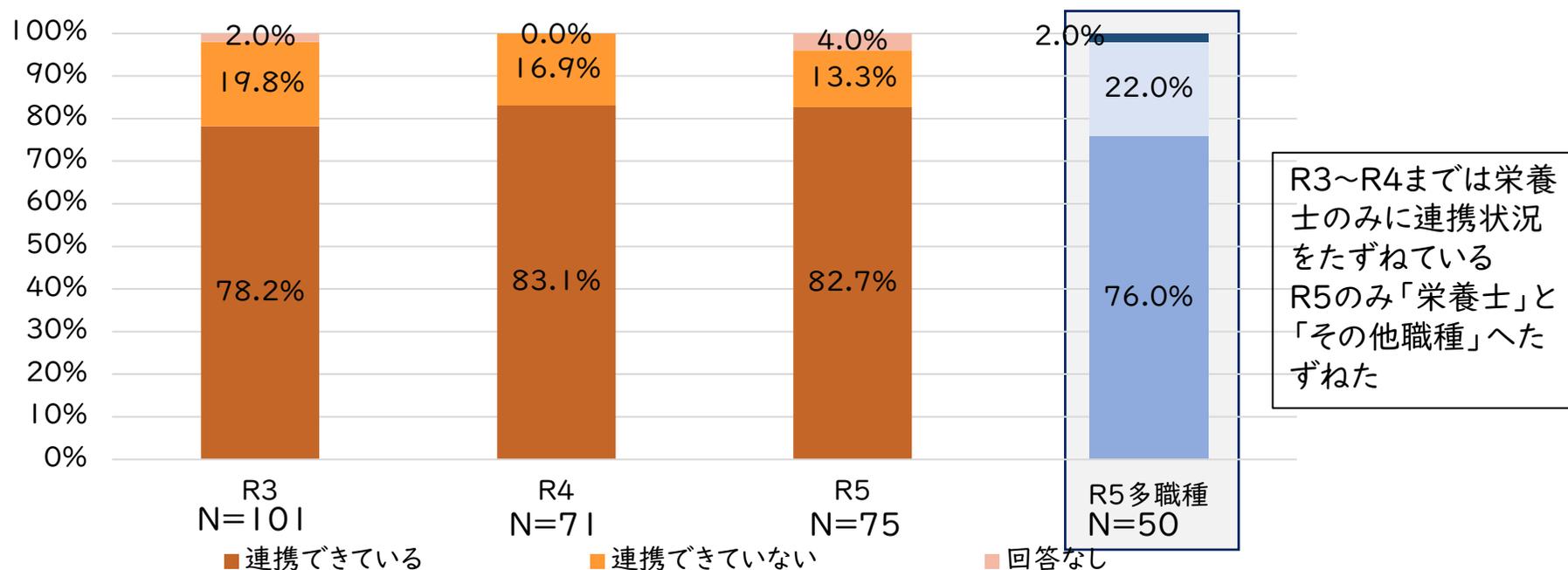
◆R5年度のうち、提供先種別



「(ウ) 提供したことがないし、できないと思う」と回答した理由

- 現状で問題ないと感じるため。(社会福祉施設)

4. 栄養サマリーを定着させていくには、多職種連携が重要だとされています。貴施設では連携できていますか



- 8割以上の施設が、「多職種連携ができている」と回答していた。
- 栄養士と比較すると多職種で「多職種連携ができている」と回答した割合は低かった(有意差なし $p=0.220$ χ^2 検定)
- 連携できていない理由は次スライド参照

4. 栄養サマリーを定着させていくには、多職種連携が重要だとされています。貴施設では連携できていますか

多職種連携ができない理由

栄養士

- 情報共有がされていない
- 現在運用をしていない事や、施設独自の情報提供書があるため
- 他職種に、サマリーの必要性や周知ができていない。
- 運用されていないが、運用する場合は看護師等の連携は必須
- 栄送サマリー自体をなかなか見る事がない
- 現在運用していないため
- サマリーを作成する際は栄養士サイドで情報を集めているため

- 栄養管理に関して、多職種連携を必ずしも必要としていない
 - 多職種に理解されていない
- などの意見があった

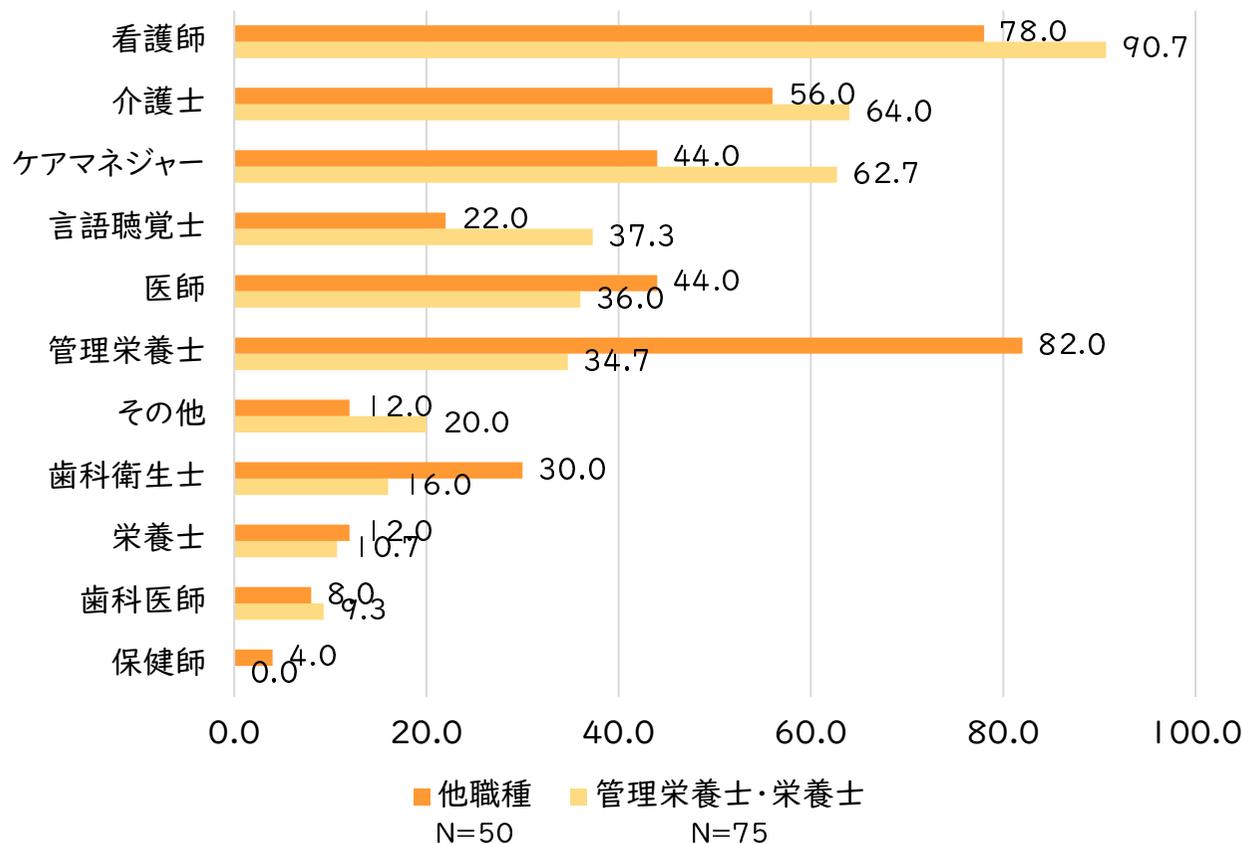
多職種

- 業務多忙につき
- 栄養サマリーの存在が周知されていない
- 情報共有のあり方が不十分なため。
- 栄養サマリーを知らない
- 栄養サマリーを栄養士以外との共有はあまり行っていない
- なかなか個々に沿った栄養管理が出来ていなく、連携して協議する事に至っていないのが現状
- 栄養士に一任しているため
- 私自身がサマリーを充分に活用できていないため。

- 業務多忙
 - 栄養サマリーの認知度が低い
- などの意見があった

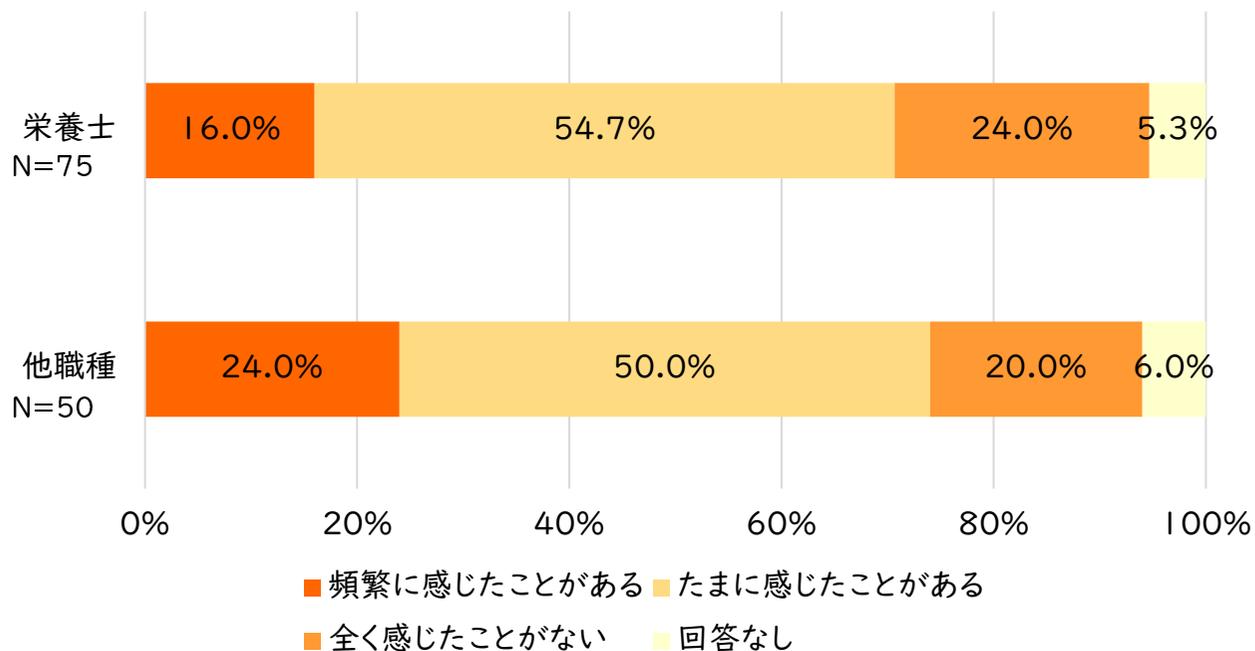
5. 気軽に相談ができる専門職種を教えてください

(複数回答可)



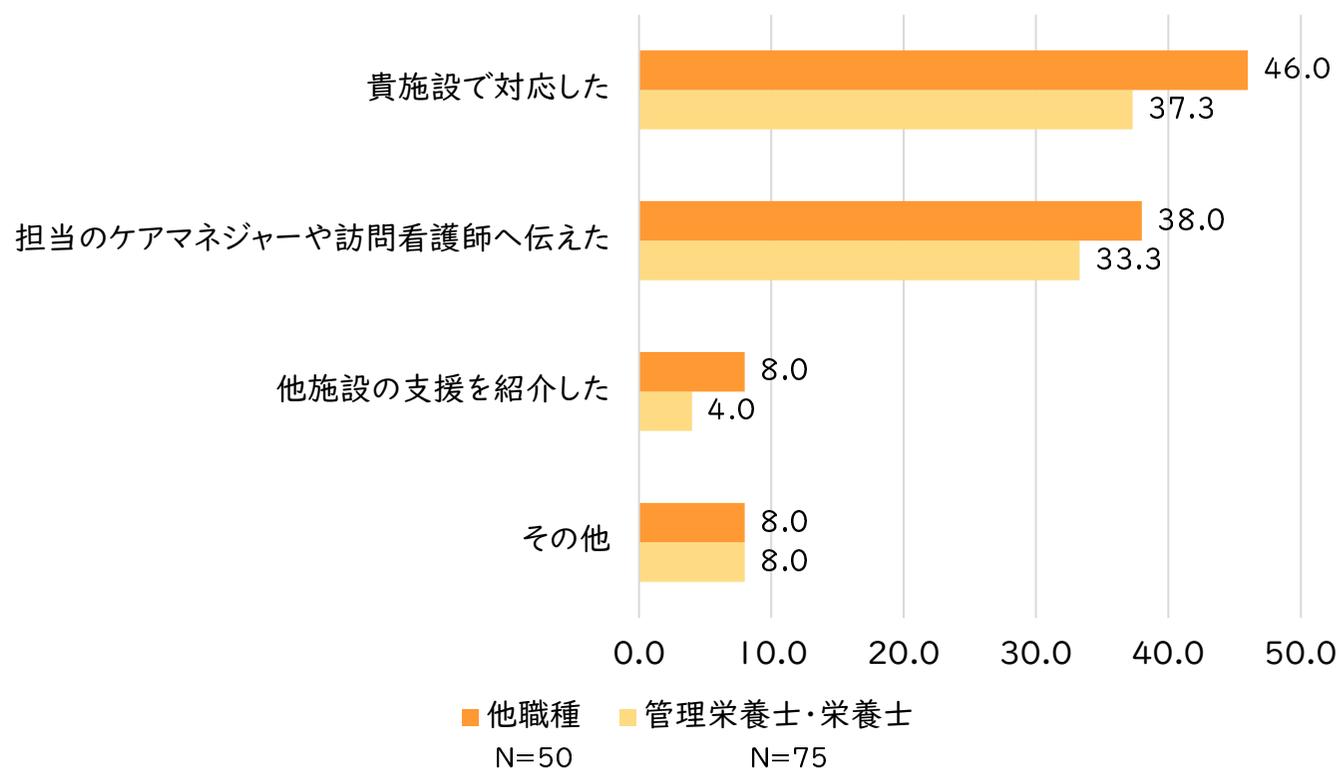
- 栄養士、その他職種ともに「看護師」、「介護士」、「ケアマネジャー」を「気軽に相談ができる専門職種」として回答した割合が高かった。
- 栄養士は、「看護師」、「介護士」、「ケアマネジャー」と回答した割合が他職種と比較して高かった。
- 他職種は、「管理栄養士」を「気軽に相談できる専門職種」として回答した割合が最も高かった。

6. これまでのお仕事の中で、多職種連携による「在宅の食支援」が必要であると感じたことはありますか



● 栄養士では70.7%、他職種では74.0%が「多職種連携による『在宅の食支援』が必要である」と感じていた。

7. 「在宅の食支援が必要であると感じた場合に」 どのような対応をしましたか。



●「貴(自身の)施設で対応した」が最も多く、次いで「担当のケアマネジャーや訪問看護師へ伝えた」が多かった。

まとめ

- 「栄養サマリー」の認知率は年々向上しており、栄養士においては約9割の施設で認知されている
- 「栄養サマリー」を「依頼できる」、「提供できる」とほぼすべての施設が回答しており、「栄養サマリー」が必要なケースでは運用されていることが分かる
- 相談できる専門職種は、栄養士では、「看護師」、「介護士」、「ケアマネジャー」と回答した割合が高かった。多職種では「管理栄養士」、「看護師」、「介護士」と回答した割合が高かった。
- 栄養士、その他職種に関わらず在宅における食支援の必要性を感じている割合は7割以上と高く、その後の支援も自施設または担当のケアマネジャーや訪問看護師に相談しているケースが多かった。